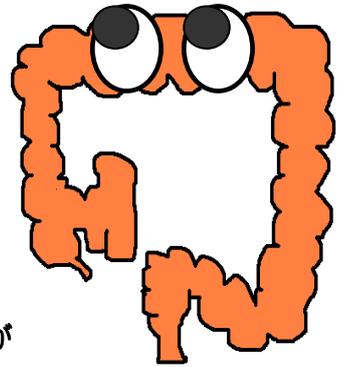


●○大腸のおはなし○●



～大腸がんによる死亡は増加傾向～

食生活の欧米化、高齢化等により全国的に大腸がんは増えており、女性の部位別がん死亡数第1位。男性でも肺がん、胃がんに次いで死亡数が多くなっています。日本では毎年15万人が大腸がんにかかり5万人が命を落としています。

～大腸がんってどんな病気？～

初期は症状がほとんどありません。進行すると「便に血が混じる・便秘・下痢・便が細くなる・腹痛」などの症状が現れます。肺や肝臓に転移し、咳や黄疸で気づく人もいます。

大腸の中にあるがんやポリープは出血していることが多いといわれていますが、中には出血を伴わないものや時々しか出血しないものもあります。もし便潜血検査の結果が陰性であっても、気になる症状があるならば、医療機関を受診することをお勧めします。

～市の大腸がん検診では何がわかるの？～

市の大腸がん検診（便潜血検査）では、便の中に血液が混じっているかを調べています。大腸に「がん」や「ポリープ」があると、大腸からの出血がみられ、陽性となります。この検査では、便の中に血が混じっていることはわかって、その原因まではわかりません。結果が陽性だからといって大腸がんであるとは限りませんが、痔からの出血だと思い込んで、詳しい検査を受けないでいると、がんを見逃してしまうこともあります。*「痔」など、便に血が混ざるような症状をお持ちの方は、この検査は適しません。医療機関に直接ご相談ください。

～検診はがん予防のスタートライン～

大腸がんは早期に発見し、早く治療を受ければ、他のがんに比べ治りやすいと言われています。また、がんが小さければお腹を切らずに内視鏡でとってしまうことも可能です。早期発見のために、検診結果が陽性となったときには、専門の医療機関で精密検査を受け、出血の原因を確認する必要があります。精密検査では大腸の中を直接カメラで観察したり、レントゲンでできものの影がないか、どこにどんな大きさのものがあるか調べます。

☆大腸がんは早期であれば95%以上が治癒します。

早く見つけることがなにより大切です。 ✨

まずは検診を受け、要精密検査となった方は、

必ず精密検査を受けてください。